

リーダーシップ研修 実施報告書

【日時】令和4年7月6日（水）10：40～12：10

【場所】岐阜薬科大学 zoomによるオンライン開催

【講師】宮本悦子氏（株式会社FuturedMe 代表取締役／東京理科大学薬学部 客員教授）

【演題】大学発新規創薬モダリティ CANDDY 技術のビジネス化

【参加者数】148人（岐阜薬科大学教職員20人、学生120人、岐阜大学1人、その他7人）



このセミナーは、岐阜薬科大学アントレプレナーシップ講演会（Tongali プロジェクト）の一環としても開講された。オンライン開催で、岐阜薬科大学の教職員や学生、関係機関の構成員が多数受講した。「解決困難な課題に挑戦してほしい。自分ができることはなにかを考えるきっかけになれば。



ロマンをもって仕事に取り組んでほしい」と冒頭で話されたが、宮本氏がその都度期限を決めて目標を立て実行してきたことは、大いに励みになる内容であった。

まず、講師が発見した新しい創薬方法（CANDDY）についてお話があった。薬をつくりたいという目標から研究をスタートされ、課題を解決して技術を開発された。

この技術をもって社会貢献をするために大学発ベンチャーに挑戦した。自分たちで開発した技術を広く有効に活用してもらい、さらに収益を上げるためには、ベンチャーが最適であると話された。起業時にはビジョン、ミッション、ポリシーを明確にすることが重要であることも話された。また、失敗したらやり直せばいいという気持ちも必要であるということであった。

最後に女性のキャリア形成として、ご自身のキャリアについてお話いただいた。大学卒業後に外資系企業に就職し、日系企業に転職後大学院へ進学、博士号を取得され大学に就職された。5年で学位取得する、10年で研修室を主宰する、10年でベンチャーを設立する、と達成時期を含めて目標を明確に設定し、着実に実行されてきた。次の夢は10年で薬を患者さんへ届けることだそうだ。

宮本先生は、今回講演していただいた CANDDY 技術の開発とベンチャー企業へのチャレンジが高く評価されて、令和3年度「女性のチャレンジ賞」（内閣府男女共同参画局）を受賞されている。「自分で道を切り拓く。人間万事塞翁が馬。ケセラセラで人生を楽しく！」と力強いメッセージをいただいた。自分1人で行わず信頼できる仲間をもつこと、他人のせいにならず自分のできることは何かを考えて行動することなど、学生にとっても多くの聴講生にとっても励みになる有意義な講演会であった。

